

平成31年度消費生活モニター 第1回 アンケート集計

1 調査趣旨

I 消費生活とごみの減量・リサイクルについて

川崎市では、平成25年9月からプラスチック製容器包装の分別収集の全市拡大と普通ごみの収集回数を週2回に変更した結果、市の人口が150万人を突破した状況の中においても、普通ごみ収集量が減少しています。

今後も地球環境にやさしい持続可能なまちの実現をめざして、エコ暮らしを実践し、さらに3R（アンケート問2の解説を参照）を推進することが求められています。そこで、今回は、川崎市のごみの減量・リサイクルの取組を知っていただくとともに、ごみに関する消費者の実態と意識を調査し、今後の行政の参考資料とするためにアンケートを実施しました。

II 節電・省エネ等について

川崎市では、日常生活の中で一人ひとりが工夫し、無駄な電力を使わないことや先端技術の活用等により、スマートなライフスタイルを定着させていくことで、二酸化炭素（CO²）の削減や地球温暖化防止の取組を進めています。

今回は、このようなスマートライフスタイルの定着に向け、節電や省エネ等に関する意識を調査し、今後の施策の参考とするため、アンケート調査を実施しました。

2 調査事項

①消費生活とごみの減量・リサイクルについて

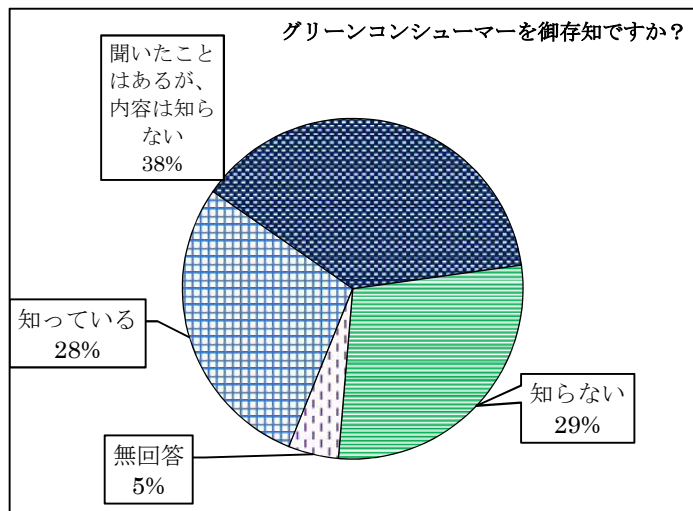
②節電・省エネ等について

- | | |
|-----------|--------------------|
| 3 調査時期 | 令和元年7月 |
| 4 調査対象 | 平成31年度消費生活モニター 21人 |
| 5 調査方法 | 郵送 |
| 6 回答数・回答率 | 21通・100% |

I 消費生活とごみの減量・リサイクルについて

【問1】 環境に配慮した行動をする消費者のことを「グリーンコンシューマー」と呼んでいますが、その行動などについて伺います。

1 グリーンコンシューマーを御存知ですか。

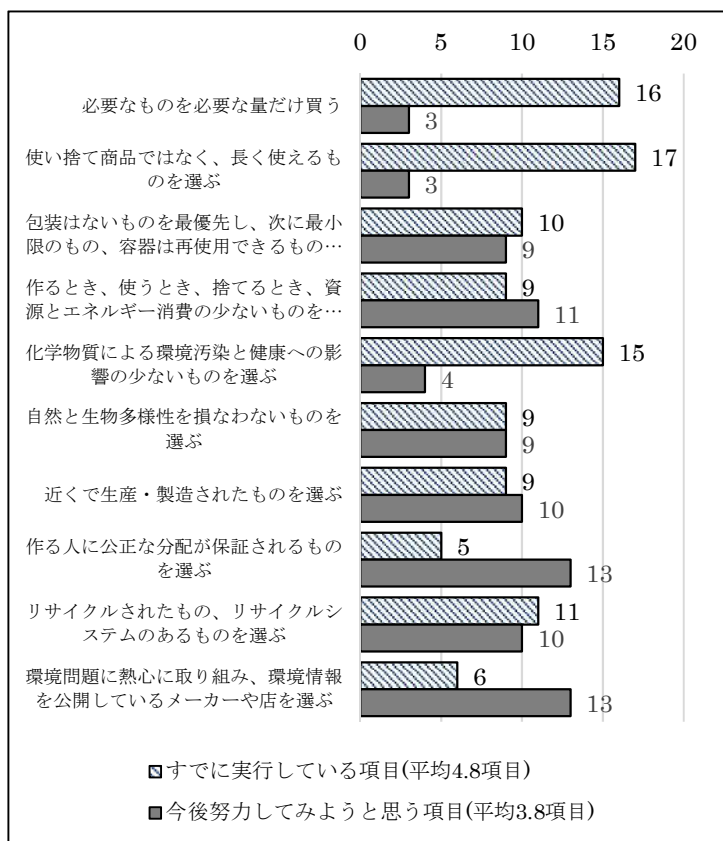


“グリーンコンシューマー”とは、一般的には、環境に良い商品を選んで買う意識の高い消費者、さらに価格が高くても環境に良い商品を買う消費者、環境にとって良い企業活動を行うように監視する消費者、環境に悪い商品や企業を拒否する消費者の総称として用いられています。

◎ 「知っている」と回答した方と「知らない」と回答した方が、ほぼ同数となる結果となりました。

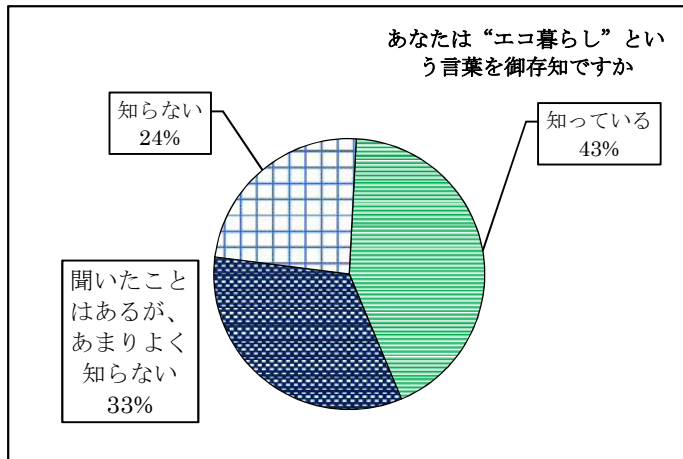
2 グリーンコンシューマー10原則の中で、【既に実行している項目】【今は実行していないが、今後努力してみようと思う項目】が、あれば回答欄に○印をしてください。（複数回答可）

グリーンコンシューマー10原則 ※ グリーンコンシューマー全国ネットワーク著「グリーンコンシューマーになる買い物ガイド」より	
1	必要なものを必要な量だけ買う
2	使い捨て商品ではなく、長く使えるものを選ぶ
3	包装はないものを最優先し、次に最小限のもの、容器は再使用できるものを選ぶ
4	作るとき、使うとき、捨てるとき、資源とエネルギー消費の少ないものを選ぶ
5	化学物質による環境汚染と健康への影響の少ないものを選ぶ
6	自然と生物多様性を損なわないものを選ぶ
7	近くで生産・製造されたものを選ぶ
8	作る人に公正な分配が保証されるものを選ぶ
9	リサイクルされたもの、リサイクルシステムのあるものを選ぶ
10	環境問題に熱心に取り組み、環境情報を公開しているメーカーや店を選ぶ



【問2】 川崎市では、地球環境にやさしい持続可能なまちの実現をめざして、「ごみ減量 未来へつなげるエコ暮らしプラン（＝川崎市一般廃棄物処理基本計画）」を策定し、取組を進めています。

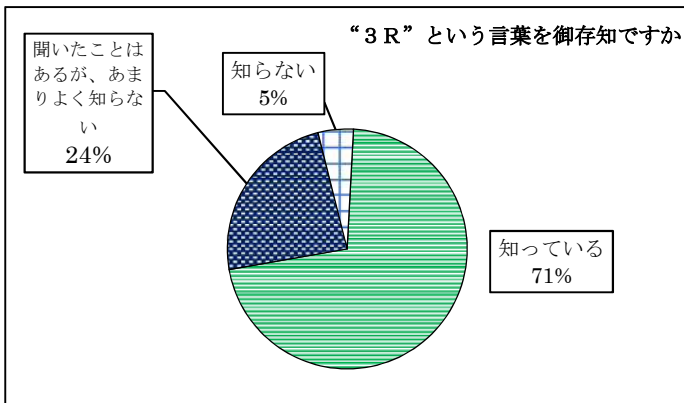
1 あなたは、“エコ暮らし”という言葉を知っていますか。



“エコ暮らし”とは、ごみの発生抑制に資する生活や活動、節電などの省エネ行動、庭や花壇の緑化の推進など、日々の暮らしの中で、環境に配慮した行動を積み重ねていくことです。

◎「聞いたことはあるが、あまりよく知らない」「知らない」と回答した方が、「知っている」と回答した方を上回る結果となりました。

2 あなたは、“3R”という言葉を知っていますか。



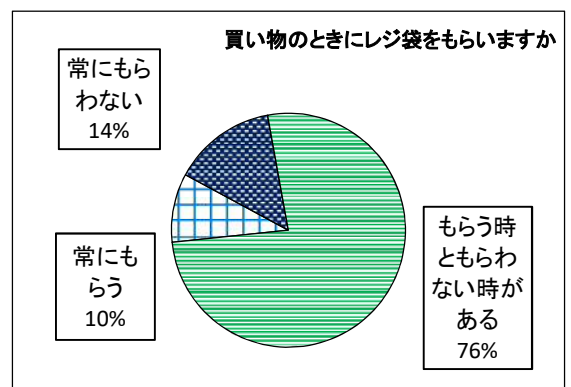
“3R”とは、Reduce（リデュース）⇒発生・排出抑制：物を大切に使い、ごみを減らすこと。Reuse（リユース）⇒再利用：使える物は繰り返し使うこと。Recycle（リサイクル）⇒再生利用：ごみを資源として再び利用すること。の言葉の頭文字の3つのRのことです。

◎「知っている」と回答した方が、「聞いたことがあるが、よく知らない」「知らない」と回答した方を上回り、前年度（65%）と比べても比率が上がりました。

【問3】 不要なレジ袋の削減は、日常生活の中で最も身近で誰でも取り組むことができる環境に配慮した行動です。地球温暖化対策の推進と循環型社会を構築するために、レジ袋はもらわない、配らないといった市民・事業者の身近な行動が重要です。今後も、環境配慮型ライフスタイルの確立に向けた取組の一つとして、市民・事業者・行政の協働によるレジ袋の削減や、マイバッグの使用等の取組を促進するため、次のことについて伺います。

1 買い物のときにレジ袋をもらいますか？

- ① 常にもらう
- ② 常にもらわない
- ③ もらう時ともらわないときがある



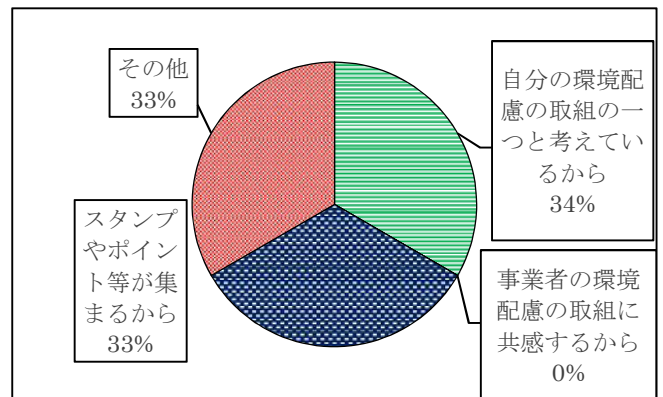
2 1でレジ袋を ① 常にもらう と答えた方にお伺いします。レジ袋をもらう理由は何ですか。

- ① レジ袋をくれるから 0%
- ② 購入品の入れ物として必要だから 100%
- ③ ごみ袋として使うから 0%
- ④ その他ごみ袋として使うから 0%

◎「常にもらう」という方は少数ながら、「ごみ袋として使うから」と回答した方が100%でした。

3 1でレジ袋を ② 常にもらわない と答えた方にお伺いします。レジ袋をもらわない理由は何ですか。

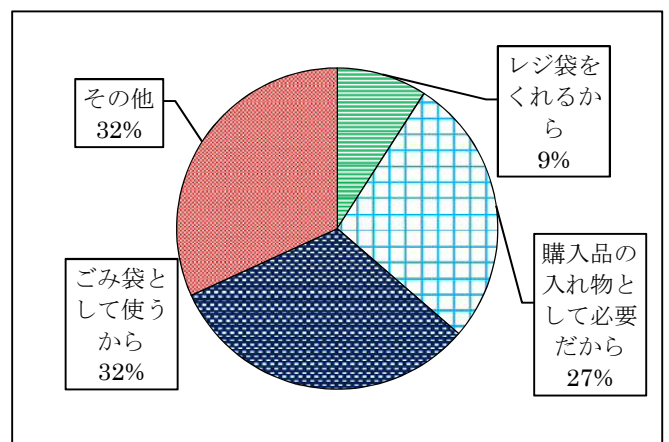
- ① 自分の環境配慮の取組の一つと考えているから
- ② 事業者の環境配慮の取組に共感するから
- ③ スタンプやポイント等が集まるから
- ④ その他
 - ・常にバッグの中に布袋は入れて、買い物をしている。ポイントを集めると合計金額から差し引いた計算の支払いになる。



4 1でレジ袋を ③ もらうときともらわないときがある と答えた方にお伺いします。

レジ袋をもらうときの理由は何ですか。

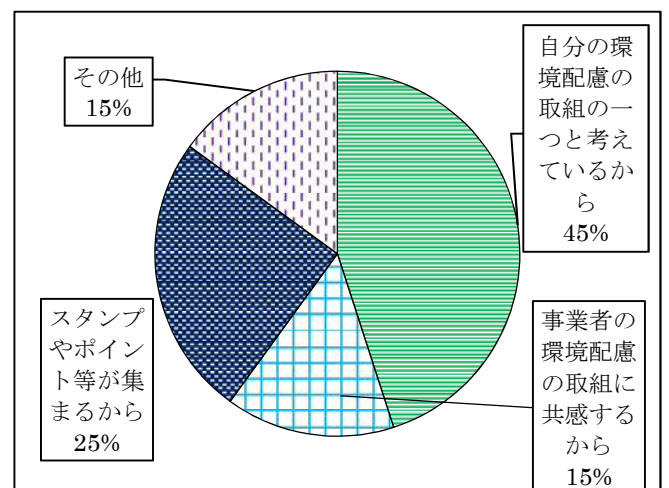
- ① レジ袋をくれるから
- ② 購入品の入れ物として必要だから
- ③ ごみ袋として使うから
- ④ その他
 - ・レジ袋が無料のときはもらう。
 - ・エコバック等を忘れて入りきらないときがあるから。
 - ・たまたま立ち寄ったお店で、思いがけず買い物をしてしまうこともあるから。 ほか



5 1でレジ袋を ③ もらうときともらわないときがある と答えた方にお伺いします。

レジ袋をもらわないときの理由は何ですか。

- ① 自分の環境配慮の取組の一つと考えているから
- ② 事業者の環境配慮の取組に共感するから
- ③ スタンプやポイント等が集まるから
- ④ その他
 - ・袋を持っているから。
 - ・臭いが強いものや水分の多いものを購入したとき以外はマイバッグ入れるから。

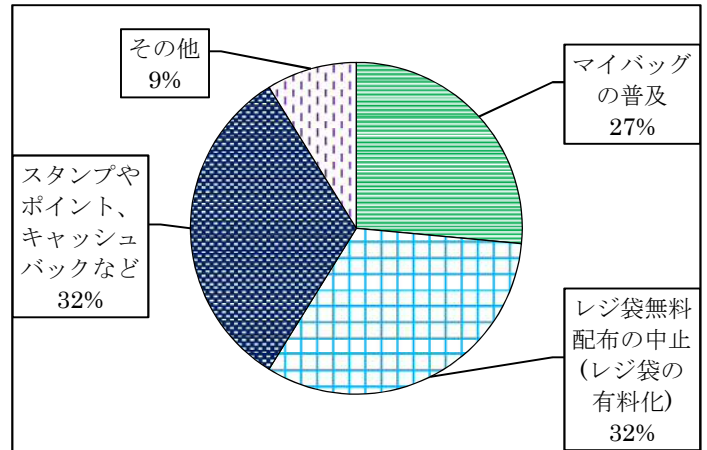


6 レジ袋削減の取組には、何が有効だと思いますか。(複数回答可)

- ① マイバッグの普及
- ② レジ袋無料配布の中止(レジ袋の有料化)
- ③ スタンプやポイント、キャッシュバックなど
- ④ その他

- ・わずかな金額でも有料化すれば、レジ袋は減ると思う。
- ・ポリ袋を使わない。ごみの出し方を考える。

ほか



【問4】「ミックスペーパー」と「プラスチック製容器包装」の分別収集について伺います。

1 ミックスペーパーをどのくらいの頻度で出していますか。

- ① 毎週 43%
- ② 2週間に1度程度 24%
- ③ 月に1度程度 19%
- ④ 出したことがない 14%

2 ミックスペーパーを分別することをどう感じていますか。

- ① 分別はわかりやすく、簡単である 63%
- ② 分別はわかりやすいが、面倒だと思う 5%
- ③ 分別はわかりにくいですが、わかる範囲で出している . . . 26%
- ④ 分別はわかりにくく、ほとんど分別していない 5%
- ⑤ ミックスペーパーの分別を知らない 0%

◎回答者は概ねミックスペーパーの分別をしています。分別方法がわかりにくいと感じている方もいるという結果になりました。

3 1で ④ 出したことがない と答えた方に質問します。理由について、該当するものに○印をお願いします。

- ① 対象物がないから 0%
- ② 資源集団回収収集日に出しているから 0%
- ③ 分別の方法が分からないから 33%
- ④ その他 67%

4 プラスチック製容器包装をどのくらいの頻度で出していますか。

- ① 毎週 81%
- ② 2週間に1度程度 0%
- ③ 月に1度程度 14%
- ④ 出したことがない 5%

- 5 プラスチック製容器包装を分別することをどう感じていますか。
- ① 分別はわかりやすく、簡単である 52%
 - ② 分別はわかりやすいが、面倒だと思う 14%
 - ③ 分別はわかりにくいだが、わかる範囲で出している . . . 29%
 - ④ 分別はわかりにくく、ほとんど分別していない 5%
 - ⑤ プラスチック製容器包装の分別を知らない 0%

◎プラスチック製容器包装の分別は、約3割の方がわかりにくいと感じている結果となりました。

- 6 4で ④ 出したことがない と答えた方に質問します。理由について、該当するものに○印をお願いします。
- ① 対象物がないから 0%
 - ② 分別の方法が分からないから 100%
 - ③ その他 0%

【問5】 拠点回収事業について伺います。

1 川崎市では、拠点回収事業として、小型家電・布類・牛乳パック・蛍光管・インクカートリッジを区役所等市内公共施設に回収ボックスを設置し、回収していますが、御存知ですか。

- ① はい 76%
- ② いいえ 24%

2 1で ① はい と答えた方に質問します。それは、どこでお知りになりましたか。(複数回答可)

- ① 市政だより 31%
- ② 自治体・町内会からの回覧物 19%
- ③ 市のホームページ 23%
- ④ 区民祭等のイベント 8%
- ⑤ その他 19%

- ・区役所に行ったときに回収ボックスが設置されていた。
- ・市の資源ごみに関するパンフレットで確認した。
- ・支所でチラシをもらった。



3 現在、拠点回収場所を次のとおり(※1)設置しています。今後新たに公共施設に設置する場合、どこに設置するとよいと思いますか。

(※1) 区役所、支所、出張所、生活環境事業所、ヨネッティー堤根・王禅寺、橋リサイクルコミュニティセンター、かわさきエコ暮らし未来館・王禅寺エコ暮らし環境館、CC かわさき交流コーナー (高津市民館内)
※品目によっては、設置していないものもあり

- ・図書館、町内会館 (公民館・集会所)、駅周辺

◎公共施設に限らずコンビニエンスストアやスーパーマーケット、駅など、日常的によく利用する場所に設置されれば便利との意見がありました。

【問6】 資源集団回収についてお聞きします。

1 お住まいの地域では『資源集団回収』が実施されていますか。

- ① 実施されている 90%
- ② 実施されていない 5%
- ③ わからない 5%

2 地域で行われている『資源集団回収』を利用していますか。

- ① 利用している 76%
- ② 利用していない 24%

3 2で「① 利用している」とお答えした方に質問します。お住まいの地域の回収頻度を教えてください。

- ① 毎週1回 62%
- ② 毎週2回 0%
- ③ 毎月1回 25%
- ④ その他 13%

『資源集団回収』とは、町内会や自治会、PTA等地域の市民で組織される団体が、回収日時・回収場所を決め、新聞・雑誌・段ボール等の資源化物を持ち寄り、回収業者に引き渡す活動です。ごみの減量・リサイクル推進のため、地域で行われている『資源集団回収』へのご協力をお願いします。



◎住んでいる地域で定期的に回収されており、その機会を利用しているという方が多数を占めました。

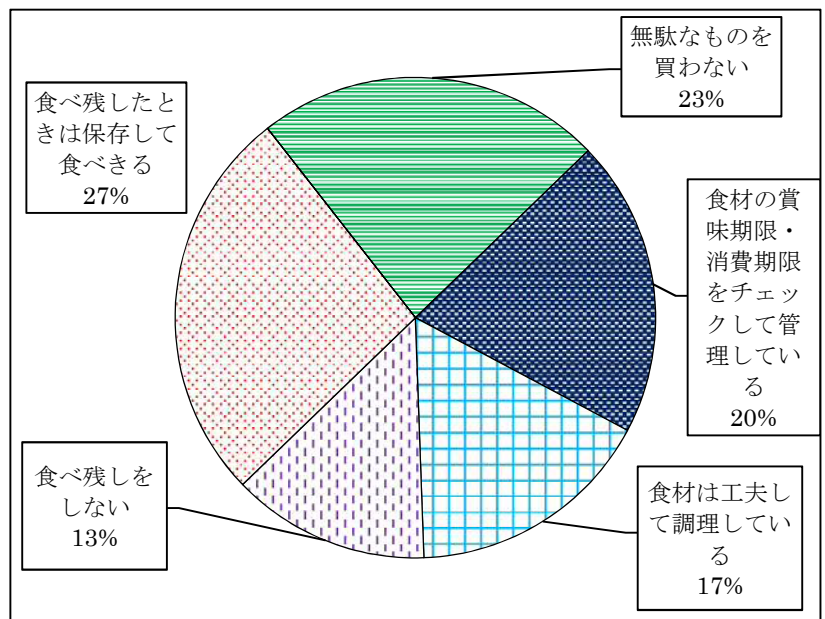
4 2で「② 利用していない」とお答えした方に質問します。利用していない理由を教えてください。

- ① 近くに回収場所がないため 14%
- ② 回収頻度が少ないため 29%
- ③ 実施しているか分からないため 29%
- ④ その他 29%

【問7】 生ごみについてお聞きします。

1 生ごみの発生量を少なくするために、何か取組をしていますか（複数回答可）

- ① 無駄なものを買わない
- ② 食材の賞味期限・消費期限をチェックして管理している
- ③ 食材は工夫して調理している
- ④ 食べ残しをしない
- ⑤ 食べ残したときは保存して食べきる
- ⑥ 特に何もしていない



2 生ごみの80～90%は水分で、この水分を減らすことで臭いの問題などを軽減でき、運搬に伴う燃料の消費量を減らすことができると言われています。生ごみの水分を減らすために、何か取組をしていますか。

- ① 生ごみを絞ったりして水切りしている 67%
- ② 風通しのいいところで乾燥させている 0%
- ③ 電動生ごみ処理機で乾燥させている 0%
- ④ 特に何もしていない 33%

3 生ごみはどうしてもごみとして出るものですが、ごみとして出さない取組として、生ごみ処理機やコンポストにより堆肥化するリサイクルがあります。このようリサイクルをしていますか。

- ① 既に取り組んでいる 0%
- ② 関心はあるが取り組み方がわからない 48%
- ③ 知らないのでやっていない 29%
- ④ 手間や負担が大きそうなので特に何もするつもりはない . 24%

4 生ごみの減量化・資源化の取組として、生ごみリサイクルの手法について紹介やアドバイス等を行う取組をしていますが、次のいずれかについて、受けてみたいと思うものを教えてください。(複数回答可)

- ① 生ごみリサイクル講習会(年に1～2回開催)※無料 . . . 58%
- ② 生ごみリサイクル相談会(年に2～3回開催)※無料 . . . 25%
- ③ 生ごみリサイクルリーダーの派遣
(依頼内容に基づき講習やアドバイスを行う)※無料 . . . 4%
- ④ 特に関心はない 13%

5 飲食店からは、食べ残しによる食品廃棄物が多く発生しているため、川崎市では食べきりを推奨している店舗を「食べきり協力店」として認定するなど、食品廃棄物の減量化に向けた取組を実施しています。飲食店での食べ残しを減らすための取組として、どのような取組が有効だと思いますか。(複数回答可)

- ① 食べきりを推奨するポスターを飲食店に掲示する。 17%
- ② 注文時に「ご飯少なめができます」などの呼びかけをする。 . 26%
- ③ 半ライス・ミニ〇〇などの小盛メニューの提供をする。 . . . 28%
- ④ ドギーバックなどの持ち帰り用パックを提供する。 23%
- ⑤ その他 6%

- ・「食べきり協力店」を全国で認定して欲しい。
- ・食べきったときにポイントカードにスタンプを集められるようにするとよい。

【問8】 年末年始の資源物とごみの収集日の認知度を把握するために伺います。

次の内、現在の年末年始の資源物とごみの収集日はどれだと思いますか。

- ① その年によって変則的に収集日が変更されている 25%
- ② 日曜日と1月1日から3日までは休みだが、それ以外は通常通り収集されている 35%
- ③ 12月29日から1月3日までは休みだが、それ以外は通常通り収集されている 40%

【問9】 今後は、地球環境全体を視野に入れ、「ごみをつくらぬ社会」「市民・事業者・行政が協力し合える関係」が必要だと思われます。私たち一人ひとりが、資源を大切にし、環境に極力負担をかけない生活スタイルにしていくとともに、そうした気持ちを実際に生かしていかなければなりません。『実

現に向けての御意見』や『これからの決意』、『わかっているが、なかなかできないこと』などがございましたら御自由に御記入ください。

ア 実現に向けての御意見

- 衣・食が満たされ、手軽に入手できる。特に、食品に関しては、賞味期限と消費期限の明記を廃止し、製造期日に変更すれば、販売業者の事業用も家庭からの未調理分の廃棄も激減するものと思われる。食品関係の法制の見直しと食品期限の安全目安一覧表を策定し、行政のPRと指導を行うことでグローバルメリットが大きいと思う。自分の食の安全は、災害時の公助・共助・自助と同じく、消費者の自己責任で管理すればいい。
- 会議に添付する資料及び市民にPRする資料は、一部を変えれば同じような内容の印刷物が多い。横の業務連絡等があれば共用活用でき、無駄な公費を削減できる。さらにその不要になった資料の廃棄量が多い。
- 委員会等の会議で、来賓に配布されるペットボトルを廃止する。
- 野菜を切る際、ニンジンなどの薄い皮はむかない。皮をむいたらみずきり籠に入れずに、すぐにごみ袋に入れるなどして、水分を含まないように心がける。このように、勉強したことを多くの人々に知らせる義務があると思う。
- 我が家は、圧倒的にプラスチックごみが多い。お豆腐、お刺身、お肉など昭和初期の時代のように、小売店で購入していたときは、今のようにプラスチックで包装されていなかった。スーパーで実現するのは難しいのであろうか？
- メディアの報道などにより、プラスチックのストローの廃止やレジ袋の有料化などをしなければ、海洋汚染などの深刻な問題になってしまうことを知った。プラ製品は私達の身の回りにはたくさんあって当たり前になっているが、世界レベルで環境問題になっていることをもっと色々と知っていかなければいけないと思った。
- 食品ロスの問題について、コンビニ弁当の消費期限を過ぎると廃棄してしまうのではなく、タイムセールを行うなどして、ロスをなくして欲しい。これには事業者の経営問題にも関わり、販売方法も難しくなると思うが、意識を変えてもらいたい。逆に、近所のコンビニでは、消費ではなく賞味期限が半年も過ぎたものを販売している場合がある。味が変わっても食中毒の心配はないとの意識かもしれないが、これもどうかと思う。期限が来ても値下げできない結果かもしれない。
- 幼児教育や大人も再教育することで、地球の資源が限られていることを一人ひとりが認識することが大切だと思う。
- プラスチックに代わる素材の利用促進が大事だと思う。
- 小型のコンポストがあれば利用したいと思うが、現状では我が家では使用できない。ビニール傘は安価で便利であるが、すぐにごみになるような物は「作らない」「購入しない」など一人ひとりの意識が大切である。
- すべての商品について、過剰包装がないか見直す風潮があればいいと思う。CM、広告、SNSに煽られて買い過ぎたり食べ過ぎたりすることを戒めるCMや広告があるといいと思う。
- ごみを増やさないようにもっと減量できるように改善していきたい。お肉やお刺身のトレイ等もかさばるので困っている。お肉は、最近はビニールタイプに包装されていて、少しはごみも減っている気がするが、まだまだであると思う。

- 事業者の環境負荷を軽減させる取組みを促進する行政を期待する。ディーゼル車の規制のように、他の自治体とも連携して対応することで、負荷を軽減させるような実効性のある取組みを期待する。行政規制を受け入れ、企業を取組みを理解し支援する市民の輪を広げていくことも求められていると思う。
- コンビニ、スーパーのお弁当はごみにするよりは値引きしてでも食べ切る。
- 消費期限は仕方ないが、賞味期限に幅を持たせて食べ切れる期間に値引き販売する
- 消費者は最新の商品を探し出すようなことはしない。
- 過剰包装されたものを買わない。
- 今の世の中は「経済至上主義」で、事業者は、値段を安くするとか目立つパッケージにするなど「モノが売ればいい」という短絡的な視点で売るための工夫をしている。そうではなくて、リサイクルできる素材とかごみの少ないパッケージであったり、消費者が長く利用できる商品の開発や販売をするべきであると思う。消費者もただ買わされるというのではなく「責任をもって選ぶ」というスタンスが必要である。
- 資源を大切にするには、余分な書類は出さない。そのためには、表裏を使用して、使用する紙の枚数を極力減らすようにすることが大切である。
- 世界各地で、ごみ問題や有害に関心がある国は、国をあげて環境問題に取り組んでいる。そんなときだからこそ、ごみの減量に、また省エネや環境問題に積極的に力を注ぎ、地球規模でエコを図るべきである。レジ袋の有料化の話が新聞やテレビなどマスコミで取り上げられている。ストローの廃止も囁かれている。ちょっとしたことでごみは減量できる。ごみ袋の出し方も空気を抜いてから出す。このようなことを一つひとつ達成していくことが大事である。
- 買い物に行っても必要な物だけを購入し不要な物は購入しないことで、ごみの減量につながると思う。
- ごみを作らない社会を本当に作りたいのであれば、消費者ではなく事業者が変わらなければいけないと思う。分解されて生態系に悪影響を与えないように改良されたレジ袋の削減に力を入れても何にもならない。やるべきことは、過剰包装や大量廃棄を行う事業者に対する指導である。事業者から出るごみは家庭ごみとは比較にならない。
- プラスティックごみについて、消費者もなるべく包装のないものを買うように努力する必要があるが、企業側も過剰な包装をしないようにして欲しい。
- 紙ストローの採用など小さなことから取り組むことが必要である。
- ごみの減量（重量）は3Rのひとつとしてももちろん重要であるが、「減容」（ポリュームを減らす）も運搬のコストなどを考慮すると有効であると思う。このため、ペットボトルやビールの缶をつぶして出すことが必要である。

イ これからの決意

- 何も不自由のない消費生活をしていると生活の程度を落とすことが難しい。ついては、「粗食は健康」・「自然との環境回復」・「3Rの実践」をモットーにしよう。
- 安い値段だと、今は必要ないと思う物まで買ってしまふ。これからは、本当に必要な物だけを買うように心がけたい。
- 必ずマイバッグを持参して、当然のように袋を渡すお店でも断る勇気を持ちたい。
- 今自分でできることをやればいいと思う。エコバッグは常に持ち歩くようにしている。

- 地球の資源は限られていることを一人ひとりが認識し、そのうえで、日常生活の中で何をすべきか一人ひとりがよく考える。
- 節電やごみ分別等今までどおりコツコツと続けていく。
- 今までもできるだけ買い過ぎないことやごみを分けることなどを実践してきたが、今後もさらにエコバッグを持つ、水筒を持ち歩くなどしていききたいと思う。
- 市民の理解に対しては行政だけでなく、学校教育のみならず家庭における教育が大きな役割を担うものであるから、生活の中で子供に対して、環境に対して負荷を少なくする選択や様式を示していきたいと思う。
- ごみは有料と考え、ごみにしない。ごみになるものは買わない。
- 衣類や家具は、必要とする人に譲り、ごみにするのは最終的な手段とする。
- 個人的には、手軽に色々な物が買ってしまう100円ショップには行かないようにしている。プラスチックによる海洋汚染の問題に関心があり、アクリルたわしはやめて、セルローススポンジや綱たわしを台所で使用している。
- ひとりの力から町へ、市へと広げていく。力を合わせていく必要がある。行政も巻き込んで、小さな力から大きな力を発揮して、きれいな川崎を守りたいと思う。
- 調理するときに、残っている物から使用していきたいと思う。
- 事業者と行政が変われば、消費者も変わる。こちらの決意を問う前に、事業者や行政の決意を見せて欲しい。
- エコバッグをいつも持ち歩き、包装のなるべく少ない商品を買うなど努めていきたい。
- 環境問題に熱心に取り組んでいるメーカーやお店を選ぶなど今までしていなかったことにも努めていきたい。
- 過剰包装を断り、賞味期限に必要以上にとらわれずに廃棄食材を減らしていきたい。
- ペットボトルやビールの缶をつぶして出すことを実践する。ペットボトルにしても缶にしても、つぶしてもリサイクルするうえでの価値が変わることはないと思う。

ウ わかっているが、なかなかできないこと

- 美味しいものならば少しでもいいと言うが、不味いものは残す。暑ければエアコンは当然のように使用する。器具等の不具合や衣類の綻びは買換えが徳。安易にペットボトル飲料を多飲する。
- ミックスペーパーの仕分けをしっかりと、毎週出すように心がけたい。
- 通信販売の分厚い冊子をほとんど注文しないのに、もらい続けてごみにしている。
- ごみの分別は細かいところまできちんとやれているかと言われると、ペットボトルは少しすすいでから出しているが、プラスチックのトレイなども本当であれば洗ってから出すなど、やらなければいけないことがたくさんあるが、細かすぎてやらないことの方が多い。今後、少しずつではあるが、考え直して実践していきたい。
- 買い物に行ったときに、なるべく製造年月日の新しい物を購入してしまうが、本当は、古い物から買った方がロスがなくいいと思うが、なかなか実践できない。
- 過剰包装や食品の廃棄、3Rなど、ごみ0（ゼロ）を目標にしたいが、今すぐは難しいので、いつまでに達成するか計画し行動する。大事なことは、法律で定めるなどして、食べ残しをしないことである。
- 学校での行事等で廃棄できる容器でお弁当を持ってくるように言われたり、自分でも使捨てのプラ容器を使ってしまふことがある。水筒があるのに、ついペットボトルの飲料を買ってしまうこともある。

- 食べ残しをしないように家族で考えいるが、どうしても残ってしまうことがある。もっと深く考えていけないといけない気がする。
- 集合住宅で暮らし、ごみの収集等も管理会社等の担い手があり、自分で対処することがないので、分別等の理解が不十分になっていると感じる。環境問題を自分のこととして考えるべきであると思うが、実感を得る機会が少なく、いつの間にか希薄になってしまう。多忙や多量になるとごみの分別等もおろそかになってしまい、ルールにルーズになってしまう。
- 毎シーズン新しい服を買ってしまう。安売りで使い切れない野菜を買い過ぎてしまう。
- 食材を無駄にせず、冷蔵効率が良くなるように、冷蔵庫の掃除を行う。
- 100円ショップで役立つ壊れやすい道具を買ってしまう。
- 子供のおもちゃとして売られている物はプラスチック製品が多い。折り紙や廃材での工作、自然にあるものや木、布を使ったものを与えたいと思っているが、子供が欲しがるキャラクターのおもちゃはプラスチック製の場合が度々あって悩ましい。
- ごみ拾いや落ち葉の掃除など道端をきれいにすることが正しいごみ処理に役立つと考えている。きれいなところは汚してはいけないと思う人が多いと考えるからである。汚ければ、きれいにしようと心がける人が少なくなると思う。忙しければ早く電車で通勤しようなどと考えて、実践することができない。周りを美しくする町を美しくすることこそがごみの減量とも関係あると思う。
- 食品を購入するときに、売出しの食品があると必要なくても買ってしまうことが多々あるので、そのようなことはできるだけ減らしていきたいと思う。
- 自分がわかっている取り組みめることは色々やっているつもりである。地球の未来のためにと思ってやっている。
- 認証マークがある商品を選んだ方がいいと思いつつ、つい値段や味などで商品を選んでしまう。
- プラスチック製品の「容器包装」と「普通ごみ」との識別や生ごみの水分減量がむずかしい。

エ その他御自由に御意見をお願いします。

- 消費生活の向上とごみの排出は比例すると言われている。都市生活者は、全国或いは世界からあらゆる物資が手軽に入る。ところが、食品に関しては、家庭からの廃棄が5割弱と報告されている。情報化時代の消費のグローバル時代の中で急に生活環境を変えろ！と言われても、早急には身につかない。子供に環境教育を行うことで大人が教わる。
- 川崎市の人口も年々増えているが、区によっては徐々に高齢化も進んでいる。そのこともあって、高齢者の平地への移住の促進と居住環境も集合住宅が増え、高層化するのと併せて、旧住人との生活環境の違いも生じている。そのような住民生活に即した環境行政を求める。
- 戸建て或いはアパート及び大規模集合住宅居住者とは、ごみ分別と集荷意識の違いがあると思われる。よって、PR 広報紙も一律的な発行より適材適所の広報の努力を求める。
- ユニクロのCMにフェデラー選手が出ていたのには驚いた。その出演料をバングラデッシュなどの生産地の労働者に使えばいいのと思う。でも売り上げの競争に勝たなければ、企業は縮小してしまう。どうすればいいのか。
- ドイツのように、ペットボトルには高い税金をかけて、水筒を持たざるを得ないようにすればいいと思う。自動販売機が多すぎると思う。海外に使用済みのペットボトルをリサイクルと言って輸出するのはやめた方がいい。海の生物の体内からプラスチックが出てくるのはとてもつらい。

- 食品ロスについては、毎年節分の恵方巻の売れ残りを廃棄するニュースを見て、そんなに売れると思って仕入れているのかな？と思った。世の中食べたくても食べられない子ども達もいる中で、日本ではこの何年か、まだ食べられる食品の廃棄問題が取り上げられている。本当にもったいないと思う。家庭でよく考えて、消費期限や賞味期限をきちんと管理すれば廃棄することはなくなると思う。ここ1～2年、我が家では、週末になると、冷蔵庫が空の状態になる。エコやロスに関しては、各自で実践できると思う。
- レジ袋は必要ないときはもらわないが、例えば持帰りのフライドチキンやハンバーガー等を書籍や他の持ち物と同じバッグに入れることができるであろうか。近年では、個人の売店でもレジ袋を提供するようになったが、20年くらい前まではほとんどもらえなかった。肉や魚、お豆腐なども薄いポリ袋に入れたまま渡され、水分が漏れたりして不快感を感じる人も多かったようだ。近所にスーパー等ができて、品物はレジ袋に入れるようになり、衛生的で気持ちのいい買い物ができるので、小売店よりスーパーに行く客が増えていった。外出着で出かけた帰りにちょっと買い物でも行ったときに、レジ袋がないお店で買い物ができるであろうか。一昔から考えると、レジ袋は、買い物の大革命だと思っていたが、こんなに問題になるとは思わなかった。レジ袋は必ずゴミ袋として再利用しているので、無駄なものとは思わないが、考え方を改めなければならないのであろうか。
- 3Rの推進。例えば、「ごみを出すと損する社会」又は「ごみがお金になる社会」。マイバッグやマイボトル、マイデッシュなどにより使い捨てをなくし、詰替え商品、長持ちするものを購入する計画的なショッピング、衣類のリフォームなど壊れても直すことによる「発生抑制」。リサイクルショップやフリーマーケットの利用による「再利用」。生ごみ処理容器・処理機の活用などによる「再生利用」。
- 新品に高く課税する。
- 経済発展を抑制する。
- メディアが課題を見えるようにする。行政の仕組みづくりのわかりやすさ。住民説明会の実施。
- 毎週1回のプラスチックごみの多さに、毎回のようにもったいなさを感じている。何とかプラスチックに頼らない生活をしてみたい気もするが、現実にはむずかしい。お弁当の容器等では既に脱プラのものがあるようであるが、ヨーグルトや納豆のパック等は何かもっといい容器はないものかと思う。プラスチックに代わる土に帰る素材の研究等が進むといいと思う。
- ごみ出しの日が水曜日と土曜日なのであるが、週3日になってくれないかな？と思ったりする。子供が小さいので、おむつのごみも夏場はかさばって、ごみ箱に入りきらないときがある。
- 市民の意識はもちろん大切で基本であるが、無理なく持続させるためには仕組みづくりが大切なのはこれまでの経験から明らかである。事業者の取組み、コスト負担のあり方、法規制の方法などひとつで解決できるものではないけれど、川崎市のような都市が先陣を切ることは必要であると思うし、期待するところである。川崎市全体で行うのが難しいのであれば、区から始めてもいいと思う。市民の理解が比較的得られやすい区もあると思う。「公害のまち」と言われていたが、普通ごみの収集量が人口増加の中でも減少しているのであればもっと宣伝したい。同じ市民が減らしていることを知れば、やはり自分も減らそうと思う。「公害のまち」というイメージよりは「環境への理解の深いまち」というイメージの方がうれしい。
- 人によって価値観の違う時代である。自然負荷の少ない生産活動を行う企業の商品を購入することが、その企業を認めることになると思ったが、一般には、好感度でしか評価されていないと思う。生活クラブ生協の組合員で、食の安全を中心とした知識や情報を得たけれど、すべて理想の食材では価格が高く、生活できない。それでも一般のスーパーにない餌や農法にこだわった食材の価値を多くの人に知って利用して欲しい。

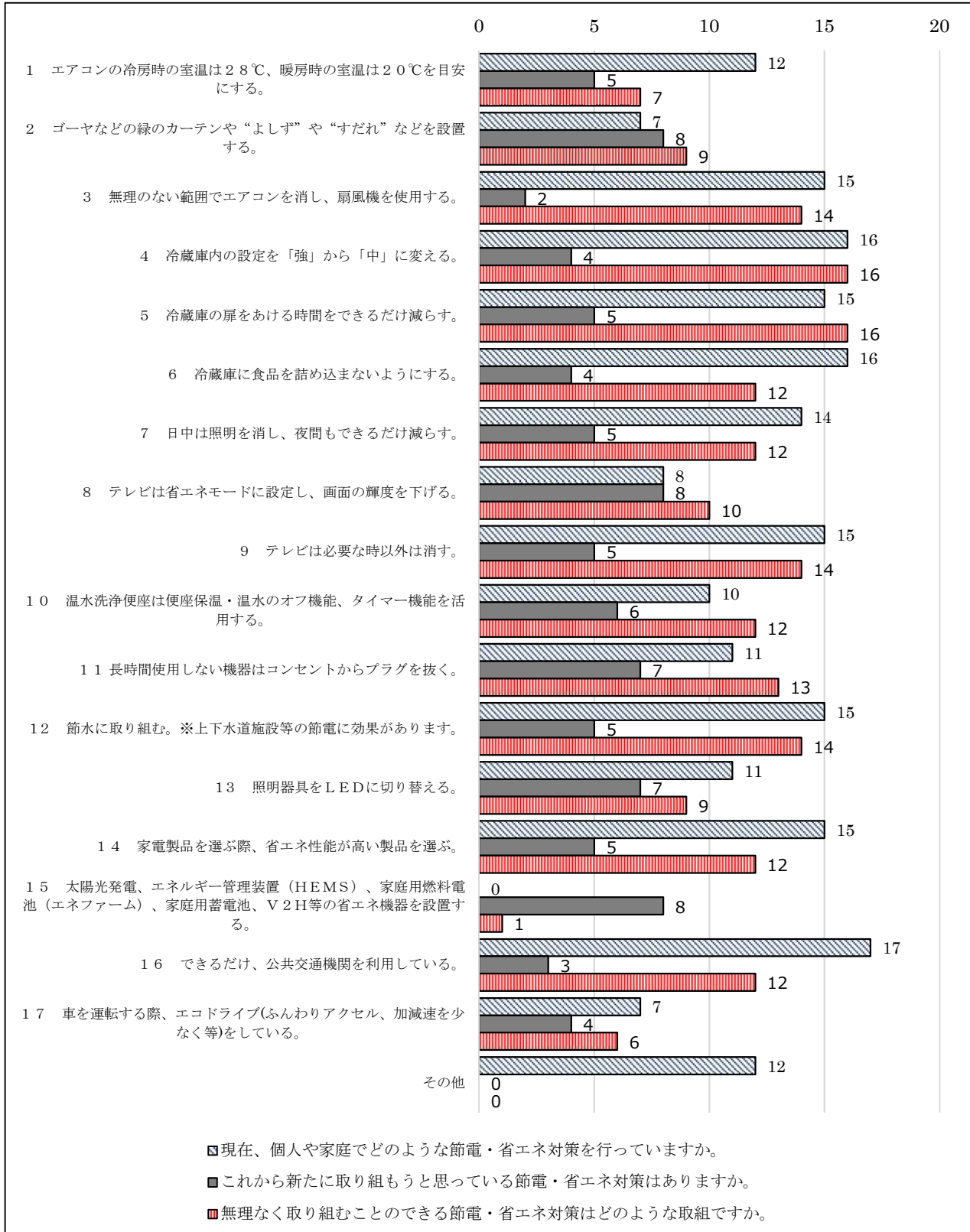
- アンケートに向けて、多くの資料をいただき大変勉強になった。時間がない中でもそれなりに勉強するいい機会になった。ごみの減量に向けて、自分で努力することも大切であるが、近隣でクリーンの意識を広げていくことが大切であると思う。ポイ捨てが増えている。
- 一人ひとりがごみの分別に向き合っていけばいいと思う。ごみ集積所に、関係なく色々出す人もいるので、ごみの減量と分別について考えて欲しいと思う。
- 人間は自分の利益にならないことに対して前向きに取り組もうとはしない。その最たる例が、今の「レジ袋削減」である。これは企業の利益の増大につながるから実施されているだけで、過剰包装や大量廃棄に対する取組みは聞こえてこない。消費者も同じである。ごみ削減やリサイクルの推進を本気で進めたいのであれば、その取組みを行う人に何らかの利益が残る仕組みを作ればいいと思う。「牛乳パック ●枚回収で●ポイント付与する」など大々的に実施すればすぐに広まると思う。ポイントが不要な人はその場でどこかに寄付するようにして広報等で表彰すれば、不要な人も取り組む意欲が出る。善意を期待した意識改革は理想であるが、現実的には難しいと思う。
- 川崎市では古着は区役所等で回収しているが、できれば、他の資源物のように月1～2回でもいいので、収集してもらえらるともっと出しやすくなると思う。携帯電話の回収を公的機関で回収して欲しい。ミックスペーパーの回収日に段ボールも回収してもらえるとありがたい。
- ごみの分別、特に小物金属類なのか一般ごみなのか区別が難しいので、具体例などの表があるといいと思う。
- 既に実施済みの自治体もあるが、可燃ごみを入れる袋を有料化すれば、ごみの減量に一番効果があると思う。回収する一般廃棄物をどのように処理しているのかももっと市民にPRして欲しい。今後、海洋プラスチック汚染が大きな社会問題になると思うが、市内の河川や川崎市に接する湾岸の海洋汚染の実態を調査し、公表して欲しい。

Ⅱ 節電・省エネ等について

【問1】 日常生活において節電や省エネを意識していますか。該当するもの1つに○印をお願いします。

- ① 非常に意識している 33%
- ② ある程度意識している 67%
- ③ あまり意識していない 0%
- ④ 意識していない 0%

【問2】 家庭で取り組んでいる（取り組む予定）の節電・省エネ対策についてお聞きします。

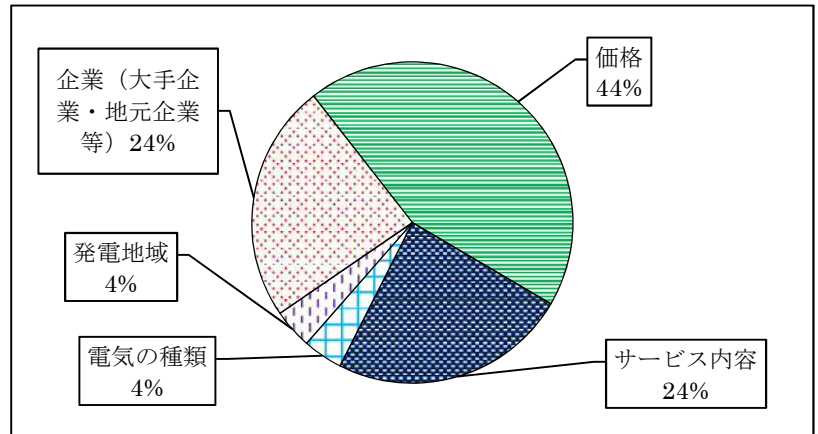


◎その他（具体的に）

- ・24H風呂のタイマーセット、入浴時間が異なるので入る前に加温する。
- ・シャワーは流しっ放しにしないで、こまめに止めるようにしている。
- ・植物の水やりはお風呂の残り湯を使用している。
- ・風呂の残り湯は洗濯する際に利用している。
- ・冬は機能性下着やフリース等を重ね着して、無理のない程度で暖房を抑えている。不必要な物を買わないようにする。
- ・昼間はなるべく電気を使用しないようにしている。
- ・洗濯機を2層式に買い換えて節水している（色物と白い物を分けると何回かの洗濯となるため）
- ・慢性病の薬はもらい過ぎない。
- ・マイ水筒の使用。照明で使用していない箇所は間引きしている。風呂はできるだけ同じ時間に入る。打ち水をする。
- ・我が家にはテレビや自家用車がなく、自転車か公共交通機関を使用している。ご飯は電気釜を持たずに鍋を使ってガスで炊いている。
- ・自分がいる部屋以外は電気を使用しない。
- ・料理のときに余熱を利用してスイッチを切る。コンセントを抜き、必要な量を必要なときだけお湯を沸かす。夜間電力を利用して電気を備蓄する。
- ・家庭内でもクールビズ・ウォームビズを徹底する。

【問3】 平成28年4月から、一般家庭等すべての需要家が電力会社を選べるようになりましたが、電力会社を選ぶ際に何を重視しますか。

- ①価格
- ②サービス内容
- ③電気の種類
- ④発電地域
- ⑤企業（大手企業・地元企業等）



【問4】 川崎市では、平成22年12月から川崎市地球温暖化防止活動推進センターを指定し、地球温暖化防止対策の普及啓発を推進しています。地球温暖化防止活動推進センターでは、高津市民館内に設けた情報発信拠点「CCかわさき交流コーナー」を運営し、地球温暖化防止対策に関する取組の相談・パネル展示・講座の開催等を行っています。

- 1 CCかわさき交流コーナーについて、①～③中でもっとも近い回答に、○印を付けてください。
- ①行ったことがある。 10%
 - ②行ったことはないが、知っている。 19%
 - ③知らない。 71%

2 問4の(1)で①行ったことがある、②いったことはないが、知っていると答えた方に質問です。
 どこで『CCかわさき交流コーナー』の情報を得ましたか。当てはまるものすべてに○印をお願いします。

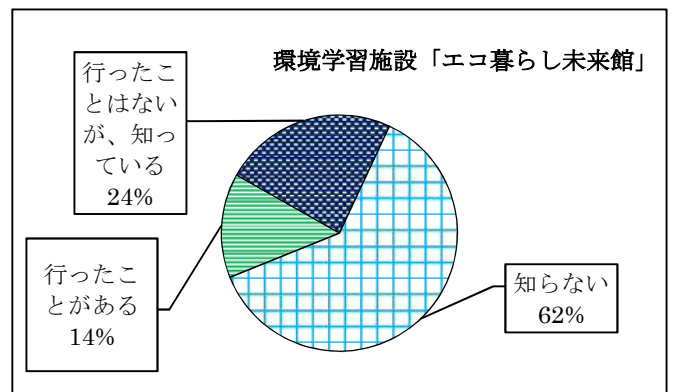
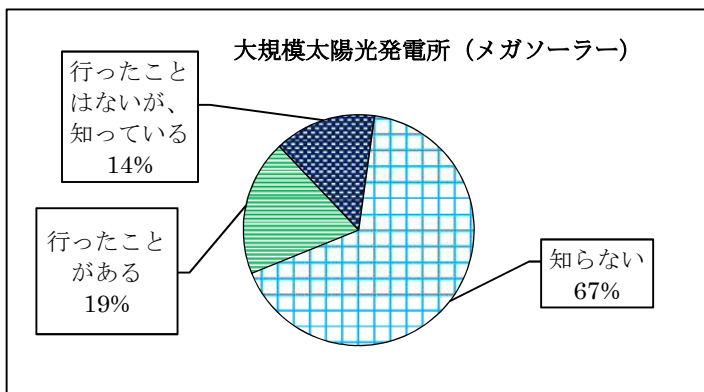
- ① 新聞・雑誌 14%
 - ② テレビ・ラジオ 0%
 - ③ 市政だより 36%
 - ④ 環境情報(市発行の冊子) 21%
 - ⑤ その他市発行のチラシ等 21%
 - ⑥ インターネット 0%
 - ⑦ 実際に行った人から聞いた 0%
 - ⑧ その他 7%
 - ⑨ わからない 0%
- その他具体的に



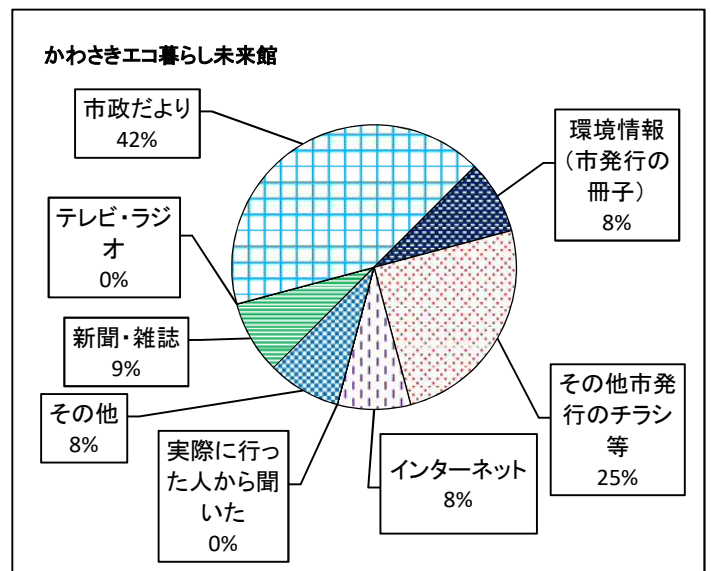
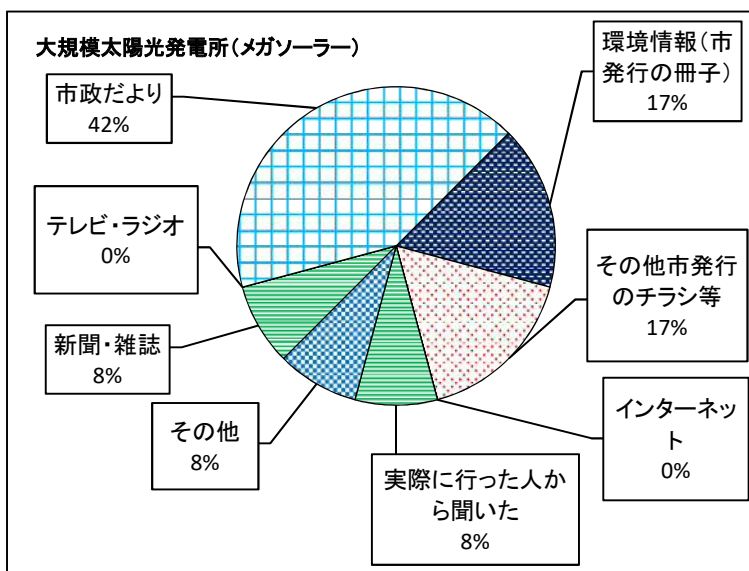
- ・高津市民館に行った際に、「CCかわさき交流コーナー」の存在を知った。

【問5】 川崎市内には、国内最大級の大規模太陽光発電所(メガソーラー)があります。また、浮島町にはメガソーラーを始めとした再生可能エネルギーや、地球温暖化について体験型の展示で学べる環境学習施設「かわさきエコ暮らし未来館」があります。

1 川崎市にある大規模太陽光発電所(メガソーラー)、かわさきエコ暮らし未来館についての質問です。それぞれについてももっとも近いものを選んでください。



2 問5(1)で①行ったことがある、②行ったことはないが、知っていると答えた方に質問です。
 どこで各施設の情報を得ましたか。当てはまるものすべてに○印をお願いします。



【問6】 節電対策や省エネ等についての御意見等ございましたら、自由に記入して下さい。

- 節電は、ピーク時の電力量を抑えるため、日中はブレーカーが切れないように、カーテン或いはブラインドで外気からの熱射を防いでいる。
- 省エネとは、総消費電力量の削減とコストのことであるので、前項までの質問の他に、電力自由化による変更で省エネ対策となっていると思う。
- 高層アパートには、各階に明かりがついているが、本当に必要なものなのか？
- 福島のような悲劇を二度と繰り返したくないので、原発に頼らないで暮らしていければいいと思う。
- 今は省エネ家電がほとんどだが、こまめに電気を切ったり、それぞれでできることはたくさんあるので、これからもう少し考えてみようと思う。
- 単身者であれば実現可能だけれども、個々にライフスタイルが違うので、家族全体で取り組むとなると困難である。
- 節電対策としては、いつがピークなのか電力会社が明確にし、そのときに自分は何ができるのか決めて行動する。省エネについては、日常、自分にできることをリストアップして実行することが大切である。
- 太陽光発電が本当に省エネになるのか。「パネルを作るために多量のエネルギーを使用している」とある科学者は言っている。木を切って、パネルを設置している風景は、環境破壊や省エネに逆行しているように思えてならない。
- 川崎市の水素をエネルギーとする取組みについて聞かせてもらった。プラスチックで水素をリサイクルできること、水素はクリーンなエネルギーであることなど全国に向けて更に発信するといいと思う。とても素晴らしい取り組みであると思う。石鹼は液体洗剤と違って、界面活性剤を使用していないので、水質を変化させないでいいと思う。もっと石鹼の良さが見直されるといいと思う。
- 夏と冬は電気代が上がるので、夏休みの昼間などは、ショッピングセンターなどへ出かけて涼んで対策を考えたり、冷たいものを食べたりして、なるべく涼しく過ごせるように考えている。
- メガソーラーの老朽化、家庭用省エネ機器のデメリットにも配慮した施策を期待している。
- まだまだ節電や省エネの意識が不足していることを実感した。勉強して、まずは家族に伝えたい。
- 使用しない部屋の照明は必ず消灯するなど節電対策を実践している。暗くなるまで帰宅しないときは、必ず外灯をつけて出かける。今年の夏の暑さは異常だったので、水道代や電気代が相当かかると思う。このような状況になったのも人間一人ひとりが豊か過ぎる生活を送ってきた結果である。
- 今後家をリフォームするときには、特に省エネ・蓄エネ機器を導入した家にしたいと思った。それが経済的な生活にもつながるし、二酸化炭素の削減にもつながると思った。
- 照明器具（LED）の価格が高いため、これから下がって欲しいと思う。
- 節電対策の冷房温度は28℃に設定することが推奨されているが、OA機器が多い職場では30℃を超えてしまい、労働生産性が極めて下がる。設定温度ではなく、部屋の温度を28℃設定にした方が最適効果とパフォーマンスが得られると思うので、ぜひ変更して欲しい。
- 照明器具をLEDに切り替えるのは、今使用しているものを買換えるときにというように、今すぐにはなかなかできない。エアコンの温度を28℃にすることは昼間はいいが、夜になると暑すぎるので、なかなかできない。
- 「川崎市スマートハウス補助金」のパンフレットを見たが、原発依存、化石燃料依存の電力構成から脱却するため、共同住宅の屋根部を利用したソーラー発電を強制的に設置することが将来的に必要なと思う。